

早稲田大学簡帛研究会若手研究者発表会 報告要旨

早稲田大学簡帛研究会では、以下の日程で若手研究者の発表会を行いました。
報告内容は次のとおりです。

■ 第4回 早稲田大学簡帛研究会 若手研究者発表会

日時：2014年1月9日（木） 16：30～20：00

会場：戸山キャンパス 39号館6階 第7会議室

報告者①：渡邊将智

題 目：「後漢安帝の親政とその統治の構造」

概 要：本報告では、後漢における皇帝支配の特色の一端を明らかにするために、安帝の親政のあり方とその政治的背景について検証した。さらに、安帝の親政を、①禁中（皇帝の生活空間）の外部に重心を置く政治制度に基本的に依拠するもの、②後漢において政策形成に血族を参加させる体制を再構築したもの、と位置づけ得ることを確認した。それらの検証結果に基づき、後漢が禁中の外部に重心を置く政治制度のもとで、政策形成に血族を参加させる体制を形成・維持しようとしていた、という可能性を想定し得ることを指摘した。

報告者②：谷口建速

題 目：「長沙走馬楼呉簡に見える税役」

概 要：本報告では、長沙走馬楼呉簡中に見える「給役」の実態について、名籍と賦税関連の記録とを併せて総合的に検討した。その結果、給役の対象として名籍には様々なものが見えるが、実際に当該の職役につくものの他、吏の子弟など本来賦税を負担すべき特殊身分の者が、逃亡や残疾などの理由により負担できない場合、貧民を耕作等に従事させ、肩代わりさせるものがあることが明らかとなった。